

2014 年 7 月 22 日 (火)
一般社団法人 日本オーディオ協会
会 長 校 條 亮 治

「オーディオ・ホームシアター展 2014」開催ご挨拶

今年も「オーディオ・ホームシアター展」を開催する運びとなり、御関係者の皆様には心から御礼を申し上げます。今年は第 62 回目となりますが、オーディオ業界にとっては、大きなターニングポイントとなる展示会と認識しており、本展示会の開催に賭ける想いを述べさせていただきます。

弊協会は、1952 年に「日本オーディオ協会設立」以来、営々と 61 年間にわたり、国内オーディオ市場のために啓発事業として同展示会を開催してまいりました。

この間、モノラルからステレオ、AM 立体放送から FM ステレオ放送、SP から LP、オープンテープからカセットテープ、LP から CD、ビデオテープから DVD などなど多くのメディアチェンジが進み、それらを支えた技術もアナログからデジタルへと大きく変貌してきました。世に Hi-Fi なる言葉が現れて 80 年以上が過ぎようとしています。

また、CD が生まれて 32 年にならんとしています。

時代は「量から質」、「汎用性から専門性」、「大衆から個性」などと言われて久しいですが、バブル崩壊後の時代の動きはグローバル化も相まって全く逆の動きになってしまいました。オーディオ業界、カメラ業界等デジタル技術をベースにした業界はまさにその代表例です。この結果、はグローバル市場を基本に、利便性と画一性に基づく価格競争のみがクローズアップされ「本物、質、オリジナリティー」は全く無視されてしまいました。

日本オーディオ協会は、このような状況下に於いて「感性価値」の代表である「音楽、オーディオ」分野での再構築を願い、原点に戻り「オーディオ」に於ける新たな価値創造を目指したいと考えました。1920 年代から営々と築かれてきた「Hi-Fi」の概念を再確認しこれに続く、もしくは超える概念として「ハイレゾリレーション・オーディオ (サウンド)」を位置付けました。まさに「新しい時代のオーディオ」の幕開けといっても過言ではありません。その視点で見て頂ければ、今回は世界初の「ハイレゾ・AV 展」ともいえます。

弊協会は去る 6 月 12 日に「ハイレゾ定義」を発表させて頂きましたが、本展示会では具体的企画として

- (1) 「ハイレゾリレーション・オーディオ (サウンド)」とは何か。を①語り、②お見せし、③お聴かせしたいと考えています。
- (2) 4K、8K など「音と映像」の近未来の「質感」を是非ご確認頂きたいと考えています。
- (3) 「マイ・オーディオ・ジャーニー」への旅にご参加頂きたいと考えています。

以上の想いを述べ、さらなるご協力をお願いしまして、御挨拶とさせていただきます。